広報 九州

平成22年12月10日
（２０１０年）
No １６６７

九州森林管理局
〒860-0081
熊本市京町本丁２－７
IP電話 050-3160-6600(代表)
http://www.kyusyu.kokuyurin.go.jp/

国民の森林・国有林

森林の流域管理システム推進発表会

研究成果を発表

九州・沖縄から180人が参加

11月10・11日の両日、熊本市国際交流会館において「平成22年度森林の流域管理システム推進発表大会」が開かれ、九州・沖縄各県の森林・林業関係者や当局・署の職員に熊本県や長崎県と大分県の森林・林業を学ぶ高校生など１８０人が参加しました。各地域や職場、学校で取り組んだ森林・林業技術の開発や普及事例など25課題（一般の部20課題、高校の部５課題）の発表があり、優秀な成績を収めた一般の部６課題と高校の部２課題が表彰されました。（２面に関連記事）

一般の部20課題・高校生の部5課題を発表＝熊本市国際交流会館

同発表大会は、九州林政連絡協議会が主催し「九州森林の日」の関連行事として、森林・林業関係者や高校生などが日ごろ取り組んでいる林業技術・流域管理・業務改善などの成果を発表し、技術の交流や情報交換を行い流域の森林・林業の活性化を図ることを目的に開いているもので、今回で16回目を迎えました。

高校生も5課題発表

はじめに、同協議会会長の沖修司九州森林管理局長が「今回は、初めて長崎県・大分県の林業関係コースを有する高校から参加いただき、発表内容も多岐に亘り、九州各県の課題であるシカ被害対策、低コスト林業をどう進めるか、持続可能な林業経営をどうやっていくか、地元と連携した森林保全活動など、非常に時期を得た課題設定となっており期待しています」とあいさつ。

その後、高校生５課題、国有林９課題、民有林８課題、民・国共同３課題を２日間に亘り発表しました。

特別講演を行う鹿児島大の枚田准教授

２日目は、鹿児島大学農学部生物環境学科の枚田邦宏准教授が「森林資源の管理と森林技術者の課題」と題して特別講演を行いました。

最後に、副審査委員長の宮城勇朗計画部長が講評を行った後、九州林政連絡協議会会長賞（最優秀賞１課題、優秀賞４課題）日本森林技術協会理事長賞１課題が表彰され、２日間の発表大会を終了しました。

（担当＝指導普及課）

九州林政連絡協議会会長賞・最優秀賞の石原さんと下田さん

6課題と高等学校の部2課題表彰
森林の流域管理システム推進発表大会

平成22年度森林の流域管理システム推進発表大会の各賞の入賞課題と発表者は次のとおりです。

九州林政連絡協議会会長賞

最優秀賞

◇効果的なシカ捕獲の取り組みについて
屋久島森林管理署
駒井裕治
下田悠介
石原拓弥
川野　等

優秀賞

◇地域の人脈が鍵！
～佐世保林業研究会による間伐推進の取り組み～
長崎県県北振興局
本山広美

◇曽於市における間伐材生産のコスト低減の取組について
鹿児島県大隅地域振興局
福留昭彦

◇地域の要望に応えたクヌギぼう芽のシカ食害対策の取組について
大分森林管理署
廣田光春
松井郁弥

◇持続可能で多様な森林造成技術の開発（小面積帯状伐採と次世代優良苗植栽）
森林技術センター
宮本和美

日本林業技術協会理事長賞

◇「佐賀県森林レーザー計測業務」の業務紹介と活用方法の検討について
佐賀県唐津農林事務所
アジア航測株式会社
夏井雄一朗
小川吉平

高等学校の部 九州森林管理局長賞

◇「里山再生プロジェクト」
～タケの有効利用　タケ・バークを原料としたファイバーボードの開発～
大分県立日田林工高等学校
河津洋紀
諫山　準
矢羽田祥真
吉長善昭

◇諫農　屋上緑化の取り組み
～古畳を活用しての経済性と効率的な植物栽培を目指して～
長崎県立諫早農業高等学校
植松和也
森田　淳
城戸拓海
城戸怜也

（上）九州林政連絡協議会会長賞・優秀賞受賞の皆さん
（下）日本林業技術協会理事長賞受賞の夏井さん

九州森林管理局長賞＝大分県立日田林工高等学校

九州森林管理局長賞＝長崎県立諫早農業高等学校

後田憲幸
（担当＝指導普及課）

体験ツアーで国有林をPR

【宮崎北部森林管理署】五ヶ瀬川森林・林業活性化センターと連携し、「森林・林業体験および治山事業紹介ツアー」を行いました。日ごろ、森林や林業に触れることの少ない延岡市や日向市から、31人の親子が参加しました。一行は、紅葉真っ盛りの鹿川渓谷での森林浴や広葉樹の植樹を体験しました。地元の方から、昔の林業を中心とした苦労話やシカ被害の現状を聞いた後、チェンソーアートを見学。また、平成19年の台風による災害地の復旧個所の谷止め工設置状況や県施工砂防施設のスリットダムを見学しました。参加者は、今回の体験ツアーに大変満足していました。

谷止め工を見学する参加者＝宮崎北部

「木になる紙」シンポジウム開催

1枚の紙から考える森林・地域・循環

10月23日、熊本県青年会館において、「国民が支える森林づくり運動」推進協議会が推進している九州間伐紙の普及推進イベントとして、『「木になる紙」シンポジウム～1枚の紙から考える森林・地域・循環』が開かれました。

まず、「国民が支える森林づくり運動」推進協議会会長の沖修司九州森林管理局長と協議会員である熊本県の藤崎岩男林業振興課長があいさつ。

その後、鹿児島大学遠藤日雄教授が、中国などの外国資本と日本の森林の関係や間伐材の用途について基調講演を行いました。続いて松下生活研究所の松下修代表が、日本で使われている紙の現状と背景について、最後に宮城勇朗計画部長が、「木になる紙」の仕組みや実施状況などを報告しました。

パネルディスカッションでは、小国町森林組合の簗瀬和彦事業課長から、「林業を継ぐ人がおらず、林業従事者が将来的に足りなくなる恐れがある」との問題提起がなされ、NPO法人くまもと温暖化対策センターの宮原美智子理事長からは、「消費者がお得と感じる仕組みづくりをしないと長続きしない」「子供の頃から木材と接する環境をつくることが大事」など、間伐紙の普及や林業を取り巻く現状について活発な意見交換がなされました。

今後とも九州林業の活性化や地球温暖化防止への貢献に向け、「木になる紙」の普及推進に努めて参ります。

（担当＝企画調整室）

活発な意見交換がなされたシンポジウム

児童ら保育間伐を体験

【熊本森林管理署】熊本市立金峰山少年自然の家から要請を受け、同市立植木・山東・山本小学校5年生112人に森林教室を実施。はじめに児童らは、14班に分かれ、保育間伐や枝打ち体験、午後からは本立て作りや丸太切りに挑戦しました。初めての体験に児童らは、木が倒れると歓声を上げたり、自分で作った本立てにとても満足している様子でした。

枝打ちに挑戦する児童ら＝熊本

ちょっと一言

『杉のように真っ直ぐに』

大分県九重町
町　　長
坂本 和昭さん

九重町は大分県の南西部に位置し、久住山を主峰とする九重連山に囲まれた人口1万1千人の小さな町です。特産物としてバラ・梨・トマト・豊後牛や、町内に多くあるクヌギを利用した椎茸の原木栽培も盛んです。

また、町内には九州最大規模のスキー場「九重森林公園スキー場」や四季折々の風景が楽しめる日本一の「九重"夢"大吊橋」があり、年間を通じて多くの観光客が訪れています。

本町は、面積が271・41平方㌔と広く、その8割が森林であり、近年の木材不況もあって手入れが遅れている森林も数多く存在する現状となっています。これには不況による住宅の新規着工戸数の減少や建築形態の多様化により従来の工法にとらわれなくなった影響も大きいかと感じています。しかしながら、地域で育った木がその地域の気候に適合していることは言うまでも無く、改めて地域産材の良さを見直すべきではないかと思います。

また、本町では平成25年4月の開校を目指して、町内の中学校を統合した新たな中学校を建設予定です。地上3階建ての校舎となることから全てを木造とはいきませんが、木材の特性である温かみを活用した「ひかりと夢を育む学校」にしたいと考えています。その材料としては昭和25年に国有林の一部を借り受け、地元中学校の職員・生徒が植林し、その後60年間手入れをしてきた部分林の杉を使い、校舎のみならず机・椅子の材料としても使うよう計画しています。生徒たちには、祖父母や父母が将来の学校建設のために育んだ温かみのある木に囲まれた新校舎の中で、部分林に関わった人たちが重ねた努力に感謝しながら、杉のように真っ直ぐに育ってほしいと願っています。

自署の名山

沖縄森林管理署
流域管理調整官
遠山　勝

『古見岳』標高496・5メートル 西表島の最高峰

我が署の管轄する国有林は、大別して「やんばる」と呼ばれる沖縄本島北部地域と八重山諸島の「西表島」に区分されます。

沖縄県で一番高い山は石垣島の「於茂登岳（標高526㍍）」ですが、石垣島に国有林は無く、二番目に高い山が西表島の「古見岳（標高469・5㍍）」です。今回は、西表島の最高峰である古見岳を紹介します。

古見岳登山で山頂に着いた地元中学校の皆さん

西表島は東京から2100㌔、沖縄本島から430㌔離れた洋上にあり、古見岳を最高峰に300～400㍍級の山々が連立しています。古見岳は地元では信仰の対象となっており、登山ルートは、相良川沿いに登るコースとユツン川沿いに3段の滝を通って行くコースがあります。山頂までの登山道はあまり整備されておらず、特に、ユツン川コースは迷いやすく地元のガイドが必要となりますので、相良川コースを紹介します。

登山口は、古見集落の田園地帯から少し先の相良川河口近くの県道から始まります。駐車場の標識類は整備されておらず、前もっての調査が必要です。

亜熱帯林特有の「ヤエヤマオオタニワタリ」

入り口近くの歩道は集落の水源地への道路として利用されていることから道幅は広くなっていますが、すぐに相良川を渡河することとなります。西表島の登山は、登山靴よりハブとヒル対策を考慮すると長靴がだんぜんお勧めです。

水源地を過ぎると、歩道の道幅は狭くなり、クロヘゴなどの下層植生が歩道を覆っていますので、足下を確認しながら進むことになります。途中、オキナワウラジロガシなどの亜熱帯林やヤエヤマオオタニワタリなどのシダ類が見れ植物に興味のある方にはたまらないコースだといえます。

相良川沿いに1時間程行くと

西表島に自生する「セイシカの花」

歩道は急傾斜となり、急傾斜の歩道が一息つくと斜面が緩やかになり崖の上の滝見台にでます。そこから「無名滝」が見れ、しばしの休憩地となります。

標高400㍍から山頂付近は、リュウキュウチクが密生しており踏み後だけが通行できるほどです。山頂からは天気が良ければ、黒島、新城島など八重山の島々を見渡すことができ、最高の大パノラマが目を楽しませてくれます。

また、地元の中学校では三大行事と称して「古見岳登山」「西表島横断」「仲間川筏下り」を3年間で行っており、中学校生活の良き思い出づくりの場ともなっています。

古見岳登山に挑戦する生徒および父兄のみなさん

ミヤマキリシマの保全活動

【大分西部森林管理署】　阿蘇くじゅう国立公園に指定されている長者原から牧ノ戸峠一帯の国有林は、ミヤミキリシマなどの高山植物の群生地として知られています。当地では、植生の遷移により衰退しているミヤマキリシマの樹勢や開花量の経過観察を行うため刈出し試験地を設定しており、本年度も刈出し作業を行いました。当日は、当署職員をはじめ、環境省・くじゅう保護官事務所、九重の自然を守る会、九重・飯田高原観光協会から52人が参加し、ミヤマキリシマ群落の樹勢や開花の回復を願いながら、手鎌で丁寧にササ類の刈り払いをしました。

刈りだし試験地の刈り払いをする関係者＝大分西部

第6回「森のアートギャラリー」表彰・除幕

11月27日に「第6回森林（もり）のアートギャラリー」の表彰式と除幕式を九州森林管理局で行いました。

当アートギャラリーは、熊本市内の小・中・高校生から森林や自然をテーマにした下絵を募集し、入選作をアートパネル（1・4㍍×4・5㍍）に描いていただき、構内のブロック塀に設置することで、森林の大切さなどの普及啓発を図ろうというもの。

当日は、生徒や先生、保護者の方々など約60人が参加する中、宮城勇朗計画部長が表彰状の授与を行った後、生徒らは作品の前で除幕を行いました。

生徒からは、アートパネル製作にあたり、「自然や環境への見方が変わってきた。仲間と協力して作り上げることができて、大きな達成感を得られた」といった感想が聞かれるなど、貴重な経験となったようです。

また、訪れた市民の方からは、「どれも素晴らしい作品ですね」と声をかけられるなど、今回の作品も見る人に多くのことを伝えてくれることだと思います。

なお、今回表彰作品は次のとおりです。

最優秀賞

「芽生える森」

楠中学校美術部

優秀賞

「自然に包まれた森林」

桜木小学校5年生

「夏の思い出」

桜木中学校美術部

「緑の中の生き物」

帯山中学校美術部

「思い出」

清水中学校美術部

「森の道」

出水中学校美術同好会

（担当＝指導普及課）

最優秀賞に輝いた作品「芽生える森」を前に

インターシップ受入れ

【長崎森林管理署】10月19日～21日の3日間、長崎県立諫早農業高校環境創造科2年生6人を受け入れインターンシップを行いました。生徒は、最初に国有林野情勢や管内概要の説明を受けた後、治山事業実行個所や保育間伐現場を見学。また、歩道修理や境界巡検、保育間伐、収穫調査を体験。最終日には意見交換を行いました。生徒からは「歩道修理はきつかったけれど、大きなスギやケヤキを見られ、今後の進路決定までの高校生活を一層頑張ります」と心強い言葉をいただきました。

歩道修理を終え大ケヤキの前で＝長崎

ひとよし産業祭で国有林PR

【熊本南部森林管理署】11月13・14の両日、人吉市役所に隣接する「人吉城ふるさと歴史の広場」で、第61回ひとよし産業際「秋のじっくりっと博覧会」が開かれ、当署もブースを設けPRに取り組みました。当署ブースでは、しおり作りやモックン作り、火おこし体験コーナーやパネルを展示し、訪れた方は、赤や黄色に色づいたイロハモミジ葉などを題材にしたしおり作りを楽しんだり、弥生時代さながらの火おこしに夢中で挑戦する親子、また、森林の機能を記したパネルを見入る方など、多くの方々が訪れ盛況の内にPRが図れた2日間となりました。

しおり作りに挑戦する参加者＝熊本南部

森林・林業への理解を

【宮崎北部森林管理署】森林・林業への理解を深めていただくことを目的に「森とむらのフェスティバル」が東臼杵郡美郷町の宮崎県林業技術センターで開かれ、当署は、どんぐりやまつぼっくりを使ってのツリー作り体験やシカと森のカードを作っての体験コーナーなどを行いました。ツリー作り体験コーナーでは、子どもから大人まで楽しそうにツリー作りに取り組んでいました。また、シカと森のカードの体験では、現在の森の状況を知っていただくことが出来、体験者から、「学校などで取り入れられないのか」との意見もあり、森林・林業への理解を深めることが出来ました。

ツリー作りに取り組む参加者＝宮崎北部

秋の全国火災予防運動
～火災発生に備え初期消火訓練～

「『消したかな』あなたを守る合言葉」の全国統一防火標語のもと、11月9日から15日までの1週間、秋季全国火災予防運動が行われました。

当局では、火災が発生しやすくなる時季を迎え、火災予防の意識を高めるため、11月17日に局庁舎構内で、消防訓練を行いました。

当日は熊本市中央署消防署の方々にご協力をいただき、局職員はもとより、耐震工事関係者なども参加し、火災発生時の通報や初期消火、避難誘導など本番さながらの訓練を実施。職員は消化器を使った初期消火の訓練などを体験しました。

初期消火訓練を体験する職員

消防署からは、日頃鍵が掛かっている倉庫などからも発火する場合があるので気をつけること、また、消火栓による消火や避難誘導については大きな声で対応していたので良かったとの講評をいただきました。

最後に自衛消防本部長の山元康則総務部長が「火災が発生しやすい季節を迎え、防災意識を高め、火災の発生を防止し、火災から尊い命と財産を守ることが大事であり、本日の訓練を教訓に冷静に行動してください」とあいさつし、消防訓練を終了しました。

（担当＝経理課）

高千穂の山で清掃活動

【宮崎北部森林管理署】高千穂町の国有林内登山道でゴミが放置されているという情報があり、高千穂町役場および高千穂山の会と協働で、清掃活動を行いました。ゴミは以前から投棄されたもので、シカ食害によって下層植生が減少し、見晴らしが良くなったことで発見されたものです。ビン・カン・錆び付いたトタンを掘り出し作業は1時間ほどで終了。参加者からは、「情報提供はありがたい。自分たちも協力はするが登山者のモラル向上にも努めてほしい」との声がありました。

林内に放置されたビンやカン＝宮崎北部

モニターの声

山中富由美さん

日々の生活に木のぬくもりを

夫と週末に自宅裏の里山の管理をしています。春の筍に始まり、梅、桃、茗荷、柿、秋の椎茸、等々。自然の恵みを存分に味わっています。しかし近年、猪、鹿の被害でそのほとんどが収穫出来ない事があります。防護網や電柵等を試みてみたものの、その被害は年を追う毎に酷くなる一方です。一体他の人達はどんな対策を講じているのだろうかと思ったのがモニター応募したきっかけです。

過日、霧島国定公園での鹿対策見学のモニター会議に出席しました。当日は九州各地からたくさんの人が参加され、皆有害鳥獣類の対策には日々頭を悩ませられているのだと改めて感じました。公園内では、防護網の設置や木を丸ごと覆うネット等ここでも色々な防護を工夫していました。しかし私達が見学している最中にも防護網で覆われた中にどうして進入してきたのか、鹿の親子連れが入っていて驚かされました。皆が特に関心を寄せたのが、捕獲の罠を使っての実演でした。実際は担当の方の足を使って仮に鹿が罠の上を通ったとするとこの様に捕まりますという例でしたが、初めて間近で見る罠の仕組みに皆とても関心を示し、何度も繰り返し実演してもらうほどの人気でした。限られたわずかな時間ではありましたが、モニター会議はモニター同士の交流を深めることも出来、また山の持つ問題点に今後どう取り組んで行くべきかを改めて考える良い機会を持つことが出来ても良かったです。

先月私は、夫と急傾斜で、山の伐採作業をしました。自分が立っているだけでも困難な傾斜地で崖下には人家が迫り、一本一本の木を伐る毎に木をワイヤーで引っ張り、伐り取った木が崖下に落ちないように苦労の連続でした。改めて山の作業の大変さを身にしみて感じながらも、自然を相手に取り組み、とても充実感が感じられる作業でもありました。

今、山は人々の生活からどんどん遠ざかり、皆が関心を寄せなくなっています。私達に与えてくれる山の恵みをはじめ、自然の素晴らしさにもっと皆が気付き、日々生活の中に木々のぬくもりを感じられるといいなと思っています。

（大分県佐伯市在住）

綾プロ ボランティアによる照葉樹林復元作業を実施

宮崎県綾町で11月28日、ボランティアによる「綾の照葉樹林復元作業」を行いました。

復元作業は、地面まで日光が良く届くように人工林のスギやヒノキを抜き伐りし、林内に照葉樹の芽を出しやすくしたり、すでに生育している照葉樹を大きくするために行う作業で、今回が8回目となります。

当日は、地元からの応募者と関西からのピザハット体験ツアーの親子など31人が参加。

参加者は、綾の照葉樹林や作業の目的、安全作業の手順などの説明を受けた後、宮崎森林管理署職員などの指導のもと作業に取り組みました。

その後、参加者らは2年前に復元作業を行った個所で、今年芽を出している広葉樹の状況などの説明に、熱心に耳を傾けていました。

（担当＝計画課）

復元作業の抜き刈りに挑戦する参加者

低コスト路網研修会開催

【大隅森林管理署】南大隅町に位置する大鹿倉国有林内において、県や森林組合、林業事業体の職員など107人が参加し、低コスト路網現地研修会を行いました。はじめに、当署職員が路網の線形の考え方や丸太組の作設方法などについての説明。午後からは、路網開設個所で事業体のオペレーターが、路肩部分に切株を利用した土留め工法を実演。今後とも技術向上に取り組むことを確認し有意義な研修会となりました。

オペレーターの作業を見学する参加者＝大隅

森の巨人「コウヤマキ」の保護活動

【西都児湯森林管理署】11月11日森の巨人たち百選に選ばれている宮崎県西都市吹山国有林に自制しているコウヤマキまでの歩道整備を行いました。当コウヤマキは平成12年に選定後16年に保護協議会を設立、以降、樹木医による診断を始め、歩道修理や看板・標識類の整備を行ってきました。当日は、同保護協議会会員および地域ボランティアなど42人が参加し、丸太やロープなどを駆使し、安全に登山ができるよう階段づくりなどの作業に汗を流しました

保護活動に参加した関係者＝西都児湯

木になる紙ヒコーキ in 佐賀

11月13日、佐賀市立兵庫小学校において、「九州森林の日」の関連イベントとして、「木になる紙」ヒコーキ大会in佐賀が開かれました。これは当局が事務局となっている「国民が支える森林づくり運動」推進協議会が推進している九州間伐紙の普及イベントとして、佐賀県と佐賀県内の森林・林業活性化センターが主催したものです。

まず、日本折り紙ヒコーキ協会会長であり、紙ヒコーキの室内滞空時間ギネス記録保持者である戸田拓夫氏より挨拶があり、続いて局企画調整室企画調整係長が、森林・林業と九州間伐紙「木になる紙」についての講話を行いました。その後、戸田氏による紙ヒコーキ折り方教室が始まり、参加者は教え合いながら、それぞれ自慢の紙ヒコーキを折りあげ、投げる練習をしました。

午後からは、紙ヒコーキの室内滞空時間を競う個人戦、チーム戦の競技を行いました。練習より記録をのばした方、思ったより飛ばなかった方、悲喜こもごもでしたが、皆さん楽しそうに紙ヒコーキを投げ、綺麗に飛んだ紙ヒコーキには会場内から拍手がわきあがるなど、大変盛り上がりました。

最後に成績優秀者への表彰状と賞品の贈呈を行い、「皆さんレベルが高く、素晴らしい大会になりました。紙ヒコーキでも自分の好きなものでも、たった一つでいいので夢中になれるものをみつけて、一生懸命取り組んで一番を目指して下さい」という戸田氏の挨拶により、大会は無事閉幕しました。

（担当＝企画調整室）

紙ヒコーキ折り方に取り組む参加者

平成２２年度 九州の国有林

「国民の森林」実現へ いろいろな事がありました

新生国有林がスタートして7年目となりましたが、「国民の森林」を目指して取り組んだ主な出来事を「広報九州」の中から振り返ってみました。

「西表島シンポジウム」を開く

1月16日、沖縄県八重山郡竹富町の竹富町離島振興総合センターにおいて「西表森林環境シンポジウム」が開かれました。これは西表島における森林環境の保全や利用など、これまでの取り組みを踏まえ考えるもので関係者を含め約１００人が参加し、活動報告や基調講演、パネルディスカッションが行われました。

西表島の森林環境について報告を聞く参加者

「九州森林環境シンポジウム」を開く

増えすぎたシカによる林業や森林の生物多様性に及ぼす危機的な状況から、2月26日「九州森林環境シンポジウム」が開かれ、専門家から報告をいただき、今後のシカ対応策についてパネルディスカッションが行われました。

今後のシカ対応策ついて開かれたシンポジウム

玉名市で合同植樹祭

3月6日、熊本県玉名市天水町の熊野岳国有林内において、九州森林管理局・熊本森林管理署・熊本県・玉名市・熊本市の共催による合同植樹祭が開かれ、約２００人が参加し、８５０本のヒノキコンテナ苗を植樹しました。

「九州の森林保有者間での情報交換会」を開く

3月16日、九州地域の林業の再生に向けて民・国連携の取り組みを推進する観点から「九州の森林保有者間での情報交換会」が開かれ、「九州地域における森林整備の推進に関する覚書」締結者6機関をはじめ、森林保有者、森林組合、林業公社、森林農地整備センター、森林総研九州支所、九州育種場、県の県有林所管課など九州7県から約40機関70人が参加し、活発な意見交換が行われました。

森林とみどりのスケッチ大会

緑の月間行事として、熊本城内の一角にある監物台樹木園で「第6回森林とみどりのスケッチ大会」を開き、34組の幼児、小学生と保護者など１０５人の親子が参加しました。また、熊本市立託麻原小学校の緑の少年団による苗木の無料配布も行われました。

緑のスケッチ大会へ参加したみなさん

「コンテナ苗に関する意見交換会」を開く

6月30日、グランメッセ熊本で九州各県の林務担当者や樹苗生産組合、林業経営者、森林総合研究所、林木育種センター九州育種場、林野庁、局・署の職員などが出席し、コンテナ苗を活用した「低コスト造林」の確率に向けて「コンテナ苗に関する意見交換会」が開かれました。

「森の塾」開く

8月23日、熊本市の監物台樹木園で熊本県内の小学校教諭を対象に、森林・林業について学んでいただき、学校での森林環境教育に活かしていただくことを目的に「森の塾」を開き、8人の先生が参加しました。

「森の塾」へ参加した小学校の先生方

九州林政連絡協議会を開く

鹿児島市と鹿児島県薩摩川内市で2日間に渡り、第95回九州林政連絡協議会が開かれ、林野庁をはじめ九州各県や関係機関の関係者約40人が出席しました。

協議会へ参加した九州各県の関係者

九州森林・林業セミナー開く

10月17日、熊本市のレンガヒル・熊本で「生物多様性」と「生物多様性の保全に果たす役割」など、国際生物多様性記念林の役割～をテーマに、第3回九州森林・林業セミナーが開かれ、一般市民や行政関係者など約130人が参加しました。

セミナーで講演を真剣に聞き入る参加者

国有林モニターブロック会議を開く

宮崎県都城市とえびの市で、国有林モニター都城ブロック会議を開き、九州各地から27人が参加し、シカ被害地とシカ対策状況、ノカイドウの保護柵設置個所を視察しました。

森林の流域管理システム推進発表大会

11月10日と11日の両日、熊本市国際交流会館において、「森林の流域管理システム推進発表大会」が開かれ、九州・沖縄各県の林業関係者、局・署などの職員、熊本県や長崎県と大分県の林業を学ぶ高校生など180人が参加しました。

「木になる紙」シンポジウムを開催

熊本県青年会館において、九州間伐紙の普及推進イベントとして『「木になる紙」シンポジウム～1枚の紙から考える森林・地域・循環』が開かれ、基調講演やパネルディスカッションが行われました。

（本紙3頁に掲載）

森林のアートギャラリー

森林の大切さなどの普及啓発を図ろうと局構内の外壁に「森林のアートギャラリー」を設け、熊本市内の小・中・高校生から森林や自然をテーマにした下絵を募集し、アートパネルに描かれた作品6点を展示しました。

（本紙5頁に掲載）

実践・公開講座を実施

熊本市にある監物台樹木園で実践・公開講座「葉の構造を学ぶ」「絵手紙」「クラフト（踏み台）」「草木染め」を開きました。

葉の構造について説明を受ける受講生

紅葉の鶴見岳を満喫

【大分西部森林管理署】由布・鶴見岳自然休養林で近鉄・別府ロープウェイと共催で「鶴見岳紅葉探勝登山会」を開催、県内から47人が参加しました。参加者は4班に分かれ、当署職員の案内により、鶴見岳山頂から馬の背、南平台を経由して火男火売神社までの約6キロのコースを木や草花の説明を受けながら、紅葉と森林浴を満喫しました。年2回行っているイベントにはリピーターも多く、説明する職員も事前勉強が大変ですが、参加者からは「楽しかった。また参加したい」と言う意見が多く聞かれました。

職員から説明を受ける参加者＝大分西部

人のうごき

12月1日付林野庁長官発令

関東局総務部
平沼孝太（沖縄森林管理署長）
林野庁出向
久保和幸（宮崎森林管理署）
沖縄森林管理署長事務代理
後藤範明（沖縄森林管理署次長）

森林春秋

最近想うこと

先週、樹高測定技術の向上を目的に研修を行った。目測、測竿、バーテックスでの精度の違いを確認したが、目測とバーテックスでは3㍍もの誤差を生じ、いささか自信をなくす結果となった。

たまには、文明の利器を使って伝説林業を見直してみる必要があると反省。

宮崎に来て8カ月を過ぎようとしているが、飫肥スギの成長には驚嘆している。この地で林業が成り立たなかったら林業の再生はないだろうと強く思っている。再生プランの究極は山にお金を返すことだ。トータルコストの削減や木材価格の透明化など国有林が率先して取り組む課題はまだまだたくさんある。

私が尊敬する人吉の泉忠義さんは既に80歳を超えた林業家であるが、常に前進の心意気を持って「生涯学習」を貫いている。私も見習って、「知恵と勇気と愛情」を持って一歩でも半歩でも前進するよう精進したい。

（宮崎森林管理署長　工藤　篤）

第2回九州森林倶楽部
～菊池渓谷の紅葉を楽しむ～

11月7日、第2回九州森林倶楽部「清水谷の紅葉を訪ねて」を実施。参加者17人が熊本県菊池市の菊池渓谷を訪ねました。企画を行った九州森林インストラクター会のメンバーらが案内、真っ赤に色づいたイロハカエデやコハウチワカエデなどを観察しながら秋の深まる渓谷を楽しみました。

午後からは、落ち葉などを使ってフィルムルックス作りに挑戦。枝の部分などは取り除いて平にすること。淡い色の葉に黒くなった葉を重ねることで絵がしまって見えるなどのアドバイスを受けながら、画用紙の上に落ち葉を絵の具代わりに花や蝶など思い思いの作品作りを楽しみました。

参加者からは、「くわしい説明が聞けて楽しかった。作品を部屋に飾るのが楽しみ」などの声が聞かれ、無事終了しました。

（担当＝指導普及課）

作品のフィルムルックスを手に喜ぶ参加者

産業まつりで国有林PR

【西都児湯森林管理署】産業と観光振興を目的に、「さいとふるさと産業まつり2010こんねまつり」が開かれ、当署からは、職員手作りの木工品を出品し、緑の相談窓口を設け、一般客からの相談に対応しました。当日はあいにくの天気でしたが、口蹄疫の防疫措置で苦労された農家の皆さんも復興と再建をアピールのため多数参加され、賑やかなまつりとなりました。

手作り木工品が人気＝西都児湯

都会の中の憩いの森
監物台樹木園の多様な植物

㊴ シャリンバイ（バラ科）

シャリンバイと言えば、大島紬の泥染め染料として利用されていることはご承知の通りです。化学染料で染められる紬は「色大島」と呼ばれ、大島紬に比して格安となっています。

東北以南の海岸近くに野生する常緑の小低木です。葉は楕円形で艶のある濃い緑色、縁には浅い鋸歯があります。葉は枝の先端に集まって着くので輪生に見えますが互生です。

名前は、枝の分かれる様子と梅の花に似ている白色（淡紅色もある）の花弁5枚が共に車輪状に見えることから命名されています。

似た樹木にマルハシャリンバイがありますが、名前の通り葉は倒卵形で鋸歯がありません（まれに波状縁）。オキナワシャリンバイは長さも幅もさらに小さくなっています。シャリンバイは中間型が多く、同定するのに苦労しますが、果実は熟すと全部黒くなります。

シャリンバイの判別は、独特な葉裏の細脈の様子と葉の縁のわずかな反り返りに注目すると判別は簡単です。樹木園の中央付近東側に高さ1．5㍍の円柱状に剪定された2本が観察できます。

今年も早いもので十二月。年末の慌ただしい時期となった▼夏は猛暑が続き、秋の気配を感じたと思う間もなく冬が到来。いきなり寒くなった。十二月というのに関東以北を中心に暴風雨が襲い、各地で被害が発生した。確実に異常気象の度合いが高くなっているような気がする▼今年は新聞等で森林・林業を取り上げた話題が多かったように感じるが、来年は「国際森林年」。森林の多面的機能が今まで以上に注目される年となる。日本一の山主として、様々な取組を通じ林業再生や地球温暖化防止等への貢献が一層求められる▼師走のこの時期、家では大掃除が話題になる。普段から少しずつやっておけば良いものを・・と思うが、忘年会等で家を空けることが多いこの時期、これは禁句である▼これから公私ともに忙しくなるが、私たちは身体が資本。年末年始の健康管理には十分留意願いたい▼最後に今年一年の寄稿等に対しお礼を申し上げ、また、読者の皆さまの来年のご多幸を祈念申し上げながら、今年最後の当欄を閉じさせて頂きたい。（義）